

第37回企画展
国史跡指定記念

鈴鹿関

—奈良時代の国家戦略—



令和3年10月 2日(土)
~12月12日(日)

亀山市歴史博物館

日本の古代史を代表する遺跡のひとつ、鈴鹿関跡。鈴鹿関跡は、令和3年3月26日に国の史跡に指定されました。本企画展では、発掘調査の成果と文献史料から考える鈴鹿関の姿をご紹介します。そして、鈴鹿関の実像に迫るひとつの手段として、鈴鹿関の所在した鈴鹿郡の古代の姿を探ってみます。

展示内容

1. 亀山市内の国史跡

亀山市内には、野村一里塚と正法寺山莊跡、そして新たに指定された鈴鹿関跡、計3件の国の史跡があります。それぞれの概略をご紹介します。

2. 道を塞ぐー内乱の時代ー

鈴鹿関は、壬申の乱の際、「鈴鹿関司」という役職名で史料に初めて登場します。飛鳥・奈良時代には、鈴鹿関・不破関・愛媛関の三関以外にも関が存在していました。内乱の続いた時代、道に設けられた関は、交通管理施設としての役割を果たしていました。

3. 鈴鹿関と制度ー奈良時代の政策ー

鈴鹿関は、律令に記された三関のひとつでした。三関の具体的な場所は、注釈書である令義解で解説されています。そこで、律令と注釈書を中心に、律令国家が三関に求めた平常

時の交通管理施設、非常時の軍事防衛施設としての役割を見てみます。

4. 鈴鹿郡の古代

鈴鹿関は、鈴鹿郡に所在していました。古代の鈴鹿郡では、人々は日常生活を送り、そこには公的施設がいくつか存在しました。伊勢国府、鈴鹿駅家、鈴鹿郡衙、そのほか瓦窯もあり、そこには官道である東海道も通っていました。鈴鹿郡の古代のようすを探ることから、鈴鹿関の実像に迫ってみます。

5. 鈴鹿関跡

現在までの発掘調査の結果、鈴鹿関跡では、西辺築地塼の一部が確認されました。土を突き固めた版築という技法で造られた壁、そして屋根には瓦を葺いたものです。鈴鹿関の中心部や全体の範囲など、全容の解明まではまだまだ時間がかかります。現状と課題を整理します。



令義解巻五



複製関閘木契
原資料：宮内庁書陵部



市指定文化財 重圓文軒丸瓦
(鈴鹿関跡第1次調査)



市指定文化財 丸瓦・平瓦
(鈴鹿関跡第1・9次調査)

連続講演会

①「内乱の時代と鈴鹿関ー国家戦略を考へるー」

講師 中川由莉 (亀山市歴史博物館 学芸員)
日時 10月16日(土) 13:30~15:00
申込期間 9月1日(水)~10月8日(金)

②「鈴鹿関とその周辺」

講師 森川幸雄 (亀山市まちなみ文化財グループ)
日時 10月30日(土) 13:30~15:00
申込期間 10月6日(水)~10月29日(金)

③「古代関所の通行証」

講師 市大樹氏 (大阪大学大学院 教授)
日時 11月6日(土) 13:30~15:00
申込期間 10月6日(水)~10月29日(金)

④「日本を東西に分ける関ー鈴鹿関と古代交通ー」

講師 近江俊秀氏 (文化庁文化財第二課 主任文化財調査官)
日時 12月4日(土) 13:30~15:00
申込期間 11月1日(月)~11月26日(金)

展示解説会

①日時 10月31日(日) 13:30~14:30
解説 山口昌直 (亀山市まちなみ文化財グループ)
中川由莉 (亀山市歴史博物館 学芸員)
申込期間 10月6日(水)~10月29日(金)

②日時 12月5日(日) 13:30~14:30
解説 森川幸雄 (亀山市まちなみ文化財グループ)
申込期間 11月1日(月)~11月26日(金)

共通事項

募集人数 各回20人(先着順)
会場 亀山市歴史博物館 講義室
申込方法 亀山市歴史博物館へ電話 (0595-83-3000) または直接お申込みください。

- ・発熱や咳などの風邪症状が見られる人は観覧ならびに参加を控えてください。
- ・マスクの着用や手指の消毒など、新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いします。
- ・やむを得ず中止となる場合があります。

主催 亀山市歴史博物館
開館時間 9時~17時(入館は16時30分まで)
休館日 火曜日(11月23日(火)は開館、翌日休館します)
観覧料 無料(常設展示室は観覧料が必要です)



亀山市歴史博物館

〒519-0151 三重県亀山市若山町7番30号
TEL 0595-83-3000 FAX 0595-83-3334
URL <http://kameyamarekihaku.jp/>



JR亀山駅から徒歩20分
市バスさわやか号「図書館前」下車すぐ
亀山ICより車で10分

